文教福祉常任委員会

平成23年7月5日（火曜日）

文教福祉常任委員会

平成23年7月5日（火曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第 9号 専決処分の承認についてのうち本委員会所管事項（平成23年度旭市一般会計補正予算）
- 議案第14号 専決処分の承認について（旭市介護保険条例の一部を改正する条例）
- 議案第15号 専決処分の承認について（旭市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例）

《付託請願》

- 請願第 1号 「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択を求める請願
- 請願第 2号 「国における平成24（2012）年度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願

《付託陳情》

- 陳情第 1号 大幅増員と夜勤改善で安全、安心の医療・介護を求める陳情

出席委員（8名）

委員長	向 後 悦 世	副委員長	林 七 巳
委員	林 一 哉	委員	嶋 田 茂 樹
委員	佐久間 茂 樹	委員	木 内 欽 市
委員	景 山 岩三郎	委員	伊 藤 房 代

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

議 員 日 下 昭 治
(請願紹介議員)

説明のため出席した者（26名）

教 育 長	茅 田 哲 雄	環 境 課 長	浪 川 敏 夫
保 險 年 金 課 長	石 毛 健 一	健 康 管 理 課 長	高 山 重 幸
社 会 福 祉 課 長	渡 辺 輝 明	子 育 っ て 支 援 課 長	林 芳 枝
高 齢 者 福 祉 課 長	石 井 繁	病 院 事 務 部 長	渡 辺 清 一
庶 務 課 長	加 瀬 寿 一	学 校 教 育 課 長	菅 谷 充 雅
生 涯 学 習 課 長	高 野 晃 雄	体 育 振 興 課 長	野 口 國 男
病 院 事 務 次 長	石 鍋 秀 和	病 院 経 理 課 長	鈴 木 清 武
病 院 再 整 備 室 院 長	鏑 木 友 孝	そ の 他 担 当 員	1 1 名

事務局職員出席者

事 務 局 長	堀 江 通 洋	事 務 局 次 長	向 後 嘉 弘
主 任 主 事	飯 嶋 健 悟		

開会 午前10時 0分

○委員長（向後悦世） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

本会議において当委員会に付託されました4議案、いずれも重要な案件でございますので、慎重審議のほどよろしくお願い申し上げます。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は7名、委員会は成立いたしました。

木内委員におきましては、けさほどの火災のため、少々遅れるとの連絡がございましたので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、文教福祉常任委員会を開会いたします。

なお、日下昭治議員より本委員会を傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了解をお願いいたします。

また、市民より傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、併せてご了解をお願いいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんは、そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 1分

(傍聴者入室)

再開 午前10時 1分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案等説明のため、教育長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、夢田教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○教育長（夢田哲雄） おはようございます。

それでは、文教福祉常任委員会の開催に当たりまして、執行部関係各課を代表し、ごあいさつを申し上げます。

日ごろより委員の皆様には、多方面にわたりご指導、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。去る3月定例会の文教福祉常任委員会開催中に発生しました東日本大震災から4か月が経過しようとしておりますが、旭市は幸いにして入梅前に、被災者の方々には仮設住宅への入居を終えることができました。しかしながら、東北地方の被災者の方々につきましては、いまだ避難所生活を余儀なくされている方が大変多くありますとともに、大雨による地滑り被害等、新たな脅威のもと、不安な生活を過ごされております。

旭市においては、一日でも早い復旧・復興を実現し、市民の活性化はもとより、東北地方の方々に対してもわずかでも明るい希望を与えられるよう、職員一丸となり頑張っておりますので、議員の皆様方におかれましては、より一層のご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、本日は、付託されました議案第1号ほか3議案についてのご審議をいただきますが、答弁は簡潔明瞭になるよう努めてまいりますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（向後悦世） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る6月27日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第9号、専決処分の承認についてのうち本委員会所管事項について、議案第14号、専決処分の承認について、議案第15号、専決処分の承認についての4議案であります。

初めに、議案第1号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

環境課長。

○環境課長（浪川敏夫） それでは、環境課所管に係る予算補正について補足説明申し上げます。

予算書の9ページをお開きいただきたいと思います。

4款1項4目環境衛生費の説明欄1番、合併処理浄化槽設置促進事業の19節負担金補助及

び交付金1,500万円は、東日本大震災により破損した浄化槽を更新した被災者に対し支援しようとするもので、震災時に遡及し適用するものでございます。

なお、本事業は、予算書7ページの14款2項2目衛生費県補助金の説明欄1番、被災地浄化槽復旧支援事業費補助金のとおり、千葉県の補助金750万円を見込んでおります。補助率は、1基当たり2分の1、最高15万円となっております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（高野晃雄） それでは、生涯学習課関係の予算について補足説明をいたします。

歳出の10ページをご覧いただきたいと思います。

10款教育費、4項社会教育費、1目社会教育総務費の説明欄1番、緊急雇用創出文化財台帳整備事業486万円は、合併前の各市町ごとに分散収蔵している市所有の埋蔵文化財や民俗資料を一元的に管理するため、その数量、状況を整理し、統一性を図るもので、約3万点の資料を調査・整理するものでございます。

続きまして、これに伴う歳入の説明を申し上げます。

歳入の7ページをご覧いただきたいと思います。

14款県支出金、2項県補助金、3目労働費県補助金、説明欄1番、緊急雇用創出臨時特例基金事業費補助金486万円が歳出で説明しました事業の財源となるもので、事業費の全額が県補助金となるものでございます。

以上です。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第1号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第1号の質疑を終わります。

続いて、議案第9号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、私のほうから議案第9号、専決処分に係る補正予算書のうちの子育て支援課に関する部分についての執行状況についてご報告をさせていただきます。

補正予算書の15ページをお願いいたします。

11款災害復旧費、1項厚生労働施設災害復旧費、1目民生施設災害復旧費の中の13節委託料750万円についてでございます。この委託料の執行状況についてご報告をさせていただきますと、日の出保育所の災害復旧工事実施設計業務委託については、旭市中谷里8,129番地、建築計画、代表、林清次と契約を締結いたしました。契約日は平成23年6月14日、契約金額としては168万円となっております。

この委託契約の内容といたしましては、ボーリング調査、それから建物と園庭の地盤改良の方法についての検討ということでございます。

8月15日までに設計を完了させることといたしてございまして、その後、工事の予定としては、現在考えておりますのが、9月発注、12月に完了させて、1月には保育を再開できるように進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 環境課長。

○環境課長（浪川敏夫） それでは、専決処分の環境課所管に係る予算補正について補足説明申し上げます。

予算書の13ページでございます。

4款2項2目塵芥処理費の説明欄1番、災害廃棄物処理事業20億40万円は、災害廃棄物の処理委託料で、約10万トンの処理を見込み、分別、運搬、処分について見込みました。

歳入は、9ページの13款2項3目衛生費国庫補助金の説明欄1番、災害廃棄物処理事業費補助金10億20万円と、11ページ、20款1項1目衛生債の説明欄1番の災害対策債10億20万円を見込みました。

次に、15ページでございます。

11款1項2目衛生施設災害復旧費の説明欄1番、衛生施設災害復旧費2億1,000万円は、萩園生活排水処理施設について、災害に伴う改良工事費を見込みました。

歳入は、9ページの13款2項7目の1節、説明欄2番、廃棄物処理施設災害復旧費補助金1億500万円を見込んでおります。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 庶務課長。

○庶務課長（加瀬寿一） それでは、庶務課関連の補正予算について説明申し上げます。

予算書17ページをお願いいたします。

11款4項1目公立学校施設災害復旧費、説明欄1番の公立学校施設災害復旧費5,665万5,000円の内容でございます。

まず、13節委託料ですが、設計・監理委託料247万7,000円。これにつきましては、滝郷小学校屋内運動場天井復旧工事委託料と干潟中学校プール解体等災害復旧工事設計委託料でございます。

その下、15節工事請負費、災害復旧工事5,417万8,000円の内訳でございますが、4校ございまして、滝郷小学校、これは天井復旧ほかの工事です。古城小学校、校舎のエキスパンションジョイント、犬走り、排水、舗装等、外構関係の復旧工事です。干潟中学校、プール解体、外構全般の復旧工事になります。飯岡中学校、グラウンド、テニスコートの砂処理、校舎のカーペット交換工事になります。

なお、飯岡中につきましては、その前の補正で屋外運動場、自転車置き場等々、フェンス改修の工事が済んでおります。

これにつきましてはの歳入でございますが、9ページをお願いいたします。

13款1項2目災害復旧費国庫補助金、2節の文教施設災害復旧費国庫負担金1,648万1,000円。これは、国の負担率は3分の2でございます。

それと、11ページ、20款市債です。

20款1項7目災害復旧債の4節文教施設災害復旧債5,660万円、これで市債を見込んでおります。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（高野晃雄） それでは、生涯学習課関係の予算について補足説明をいたします。

歳出の説明をいたします。

17ページをご覧いただきたいと思います。

11款災害復旧費、4項文教施設災害復旧費、2目社会教育施設災害復旧費、説明欄1番、社会教育施設災害復旧費2,230万2,000円のうち生涯学習課所管の工事請負費は、東日本大震災で被災した施設等の災害復旧工事費でありまして、大原幽学史跡遺跡公園にあります旧林家住宅においては、地震で壁にひび割れ等が起り、また、いいおかコートピアセンターにおいては、地震と津波で空調設備や外構フェンス等が損傷し、また、足川浜の憩の家跡地においては、かねて植栽済みの黒松が津波等で流されてしまいましたので、それぞれ復旧させ

るためのものがございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 体育振興課長。

○体育振興課長（野口國男） それでは、体育振興課のほうから、所管いたします施設、やはり東日本大震災で被災をしておりますので、その復旧費を見込んでおります。

ただいま生涯学習課のほうの説明いたしましたけれども、17ページになります。

社会教育施設災害復旧費として説明欄がございます2,230万2,000円のうち、970万円が体育振興課の所管いたします施設の災害復旧工事でございます。

内訳につきましては、飯岡体育館につきましては、入り口のフェンス、あるいは駐車場の舗装、それと宅内の水道管の復旧にかかわるものがございます。それと、隣にあります飯岡庭球場につきましては、照明灯4基ございますけれども、民家に対しましてかなり傾いてしまったということで、これの撤去を見込んでおります。

そのほか、海上野球場につきましては、地盤の沈下等がございました。また、総合体育館につきましては、メインアリーナのシステム天井が落ちてきてしまっておりますので、こちらの復旧費を見込んだものがございます。

よろしく願いいたします。以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第9号について、質疑がありましたらお願いいたします。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 3月11日から短い期間でいろいろ計画して、予算等つかめないところもあるんでしょう。大変だと思いますけれども、一つだけ。

日の出保育所、現場見させていただきましたけれども、かなりひどい状態ですよ。ひどかったですよね。設計・監理委託料750万円、工事1億5,000万円ってかなり大変なんですよけれども、見積もりは。場所の移転とか、かなりひどい液状化していたから、場所を変えるとか、そういったことは全く考えてなかったですかね。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） 実は、あの状況を見て、翌日ですか、あれでは保育はできないなというふうに思いまして、どこかほかの場所に移転しなくちゃまずいだろうということであれどちょっと検討はしてみました。この間の一般質問のときでしたか、6億円がどうして1億5,000万円になったのというお話もありましたけれども、その6億円がまさにそうでした。

新しくどこかに土地を求めて、今日の出保育所を解体して、別のところに建てようかという議論もかなりしてはいたんですが、現実、矢指地区というところがなかなか公共的な施設を建てられる場所がなくて、新たに土地を買って出るとなりますと、とてもそれは時間もかかるし、どうしようかということで大いぶ悩んではいったんですけども、日の出の保育所を見たときに、概略を設計した方にちょっと見てもらったんですが、建物は何でもないと。だから取りあえず、建物そのものが20年ぐらいの経過ですから、あそこを直してやっても大丈夫じゃないのという話もいただいたりして、それで副市長、市長と協議して、あそこの場所で直そうということに決定をさせていただいて……。

ただ、それにしても、保護者がかなり不安を持つだろうから、園庭、それから建物の下、全部、危険のないようにきちっとボーリング調査をして。実はきょう、ボーリング調査が入っているんですけども、建物の下と園庭とボーリング調査をして、危険のないように園庭部分をきちっとやって、あそこへ子どもたちを戻そうということに結果としてはなりました。かなりの時間をかけて、その辺は議論していたと思います。

以上です。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） そういう意味では、多分、きちっと設計していただいて、工事やっていただけることを信じて、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それと、これ、園児、保育所だから、2階にするということはどうなんですかね。一部でも、考えているんですか。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） 建物が、今、まさしく言ったように、20年たっていますので、そこを例えば一部分でも2階にするとなると、もっとすごいお金かかってしまうんじゃないかなというのもありまして、その2階部分についてどうこうという検討は、正直のところ、しておりません。

建物の杭ですね、50本ぐらい杭が打ってあります。そこで建物は全く。テラス部分は切り離されちゃって、かなり亀裂が入っていますけれども、建物は全く大丈夫なので、2階にするという議論も実際のところはしておりません。

以上です。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第14号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） それでは、議案第14号、専決処分の承認について、旭市介護保険条例の一部を改正する条例につきまして、補足して説明させていただきます。

現行条例につきましては、特別徴収の方法により保険料を徴収されている者につきましては、年金給付の支払いに係る月の前々月の15日までに申請書を提出しなければならないと定められておりまして、平成23年度分として4月給付分から引き落とされます保険料の当初分から減免の対象とするため、申請期限を今回延長するものでございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第14号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第14号の質疑を終わります。

続いて、議案第15号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第15号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（向後悦世） これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第1号、平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

議案第9号、専決処分の承認についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第9号は承認することに決しました。

議案第14号、専決処分の承認について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第14号は承認することに決しました。

議案第15号、専決処分の承認について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第15号は承認することに決しました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 異議がないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長(向後悦世) 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告してください。

庶務課長。

○庶務課長(加瀬寿一) それでは、資料を提出してございますが、飯岡中学校の改築事業基本設計についてご説明し、報告申し上げます。

平成22年度事業といたしまして、基本設計業務を完了いたしました。その概要を説明いたします。

資料といたしましては4枚の資料になっております。1枚目が基本設計の概要、それと2枚目以降は図面になっております。ちょっと小さくて見づらくて申し訳ありません。2枚目が全体の配置図、3枚目が1階の平面図、4枚目が2階の平面図、そういうつづりでございます。

まず、この基本設計でございますが、施設を造るにあたりまして、四つの基本方針を掲げました。望ましい個性と社会性を備えた、心身ともに健全で、将来の可能性を追求できる生徒をはぐくむ校舎、これが一つでございます。それと、災害に強く、環境を考慮した校舎。それと、飯岡の地域風土を尊重した、自然観があふれ、機能性のある校舎。それともう1点、地域教育の核となる、地域に開かれた校舎。この四つの基本方針で基本設計を作っております。これから、実施設計に向けましても、この基本方針で行きたいと思っております。

では、資料の1枚目でございます。

まず計画地。皆さんご存じのとおり、旭市横根・三川、いいおかふれあいスポーツ公園西側でございます。

敷地面積は3万6,286平方メートルでございます。

4番の建物の概要でございますが、建物は、海上中学校と同じような一体型の建物を計画しております。全体を三つのゾーンに分けてございまして、一つのゾーンが管理・普通教室棟、特別教室棟、それと屋内運動場、そのようなゾーニングの設計でございます。

まず、建物の校舎のほうですが、管理・普通教室棟といたしまして、構造・規模、基本的に鉄筋コンクリート造の2階建てでございます。

延床面積は3,827.185平方メートル。

管理・普通教室棟の部屋といたしましては、管理諸室、校長室、職員室、保健室、事務室等8室。普通教室、これは少人数学級用、特別支援教室を含めまして13教室です。

なお、学級数は現在、普通教室が9プラス特別支援学級が2、11クラスになっております。それと、多目的スペース、使いやすい広々とした多目的スペースを4、設置してございます。

また、特別教室棟といたしましては、延床面積が809.145平方メートル。

部屋は美術室、技術室、音楽室、被服室、調理室で5室でございます。あとは、放送室、生徒会室、みんな別の部屋建てになっております。

次に、(2)の屋内運動場ですが、面積部分、1階アリーナ部分の床面積1,626.575平方メートル。この部分につきましては、いわゆる舞台等もこの面積に入っておりますので、実

質運動できるアリーナを見ますと、記載ございませんが、約1,190平方メートルというよう
な大きさになっております。

また、2階部分には武道場がございます。1階にそれぞれの部室を、運動場の隣に設置し
てございます。

(3)の屋外施設ですが、野球場、サッカー場、陸上トラック、テニスコート。テニスコ
ートは3面とれる広さになっております。

駐輪場、子どもたち全部、現在、生徒数287人でございますが、駐輪場、ゆったり300台分、
優にとれます。

駐車場につきましては66台分。このほかに、身障者用スペースとしまして2台分。

それと、太陽光発電システムを計画しておりまして、屋上に設置しまして、20キロワット
の能力を持つ太陽光発電を設置いたします。

それでは、図面のほうをちょっと簡単にお話ししたいと思います。

まず、2枚目が配置図になっておりまして、上が北というふうに見ていただければなと思
います。この図面でいきまして、右の角の下が南東部になりますが、この南東部に正面入り
口を設けてございます。濃い色が通路関係になっております。その上の部分が教室棟。斜線、
縦線といいますか、これに見えるものがそれぞれの部屋になっておりまして、下に各教室棟
があつて、真ん中の部分が特別教室棟。上に行きまして、大きい四角が屋内運動場。そのよ
うな配置になっております。一番奥が駐車場になっております。

次に、2枚目をお願いいたします。

これが1階の平面図です。

平面図のほうがちょっと分かりやすいかも分かりませんが、一番真ん中に昇降口を設けて
おります。出入り昇降口。この図面で見まして右側が1年生の教室を今想定しております。
図面の右側が1年生の教室です。この右側の教室棟の上といいますか、多目的スペースをと
ってありまして、その上側にコンピュータ室、その右側が図書室。また、正面から左側はず
べて管理棟、校長室、職員室等になっております。この図面で真ん中に見えるものにつつま
して、正面昇降口を入れていきまして、真ん中の右側が技術室、その左側に調理室、被服室
を設けてありまして、上へ上がって行きまして、左側のほうは部室等、会議室を越えて部室
等がございます。右側に総合運動場。このような配置図です。

もう1枚、最後の資料が2階の平面図でございます。

2階は、南側全面に普通教室、特別支援教室を設けました。それで、真ん中の右上に理科

室を第1、第2と設けてあります。教室棟のすぐ上です。それと、真ん中部分に音楽室、美術室がございます。音楽、美術、1階の技術室もそうなのですが、音の出る特別教室棟を一般教室から離して、真ん中に配置してございます。2階の、この図面の真ん中の北側ですが、上側ですが、そこは武道場になっております。

以上、簡単ですが、説明申し上げました。よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） それでは、保険年金課からは2点ほど報告させていただきます。

最初に、東日本大震災に伴う国民健康保険、後期高齢者医療の一部負担金、医療費の自己負担の取り扱いについてご報告いたします。

両保険とも、一部負担金の免除割合は全額で、対象となる方は、1番目として、住家の全半壊、または全半焼、またはこれに準ずる被災をした方。2番目として、主たる生計維持者が死亡し、または重篤な傷病を負った方。3番目として、主たる生計維持者の行方が不明である方。4番目として、主たる生計維持者が業務を廃止・休止した方。5番目として、主たる生計維持者が失職し、現在、収入がない方。6番目として、原発の事故に伴い、政府の避難指示、計画的避難区域及び緊急時避難準備区域に関する指示の対象となっている方で、本市ではほとんどの方が住家の半壊以上の被災を受けた方で、この方々は全額免除となります。

免除期間は、震災発生日の平成23年3月11日から平成24年2月29日となっております。

医療機関の窓口での取扱いは、6月末までは口頭で申し出ればよかったですのですが、7月1日より、保険証と同時に一部負担金の免除証明書を提示して受診するようになりました。

なお、免除証明書は、市の被災者台帳をもとに、該当者には職権で6月中旬に送付いたしました。

また、震災後、医療機関窓口で支払った医療費があった場合は、還付を償還払いにて行っております。

あと、国民健康保険でない方も、加入の健康保険組合で実施しておりますので、そちらの健康組合で該当になると思います。

次に、後期高齢者医療保険料の減免についてご報告いたします。

減免の対象となる方は、一部負担金の免除対象者と同様ですが、住家が全壊した方は保険料が全部減免され、半壊——大規模半壊も含まれますけれども——の方は2分の1の減免がされます。

本年度の保険料は、7月中旬に減免前の納付書が一たん送付され、その後、8月に職権で

新たに減免決定書、住家の半壊の方には当初の半額の納付書が送られる予定です。既に納めた保険料、つまり特別徴収ですね。年金からの引き落としの方は、4月分からいただいておりますので、還付の対象となります。

国民健康保険税の減免、一部負担金の免除に要する費用に対する財政支援としては、ちょっと一般質問でもお答えしたんですけれども、その費用の10分の8に相当する額を国民健康保険災害臨時特例補助金、残りの10分の2に相当する額を特別調整交付金の対象として補てんになります。

後期高齢者医療保険料の減免、一部負担金の免除に関する費用も、国保と同様に、10分の8を後期高齢者医療災害臨時特例補助金、残りの10分の2に相当する額を特別調整交付金にて財政支援をいただける予定でございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、私のほうから、保育料の減免の状況についてご報告をさせていただきます。

被災された方に対する保育料の減免につきましては、児童の居住している家屋が全壊の場合は全額、大規模半壊または半壊の場合には保育料の半額免除ということでしておりまして、減免の期間は、いずれも4月から6か月間ということになっております。

6月末で減免を決定した方につきましては、保護者の数で44人、児童の数では55人、減免額としては、6か月間で363万3,000円ということになります。

この内訳といたしましては、全壊が保護者の数で7人、子どもの数で8人ということで、金額にして94万2,000円。大規模半壊と半壊につきましては、保護者の数では37人、子どもの数で47人ということで、金額は269万1,000円ということになっております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） それでは、私のほうから、やはり震災に係る介護保険料の減免と、それと介護保険利用者の自己負担額の減免についてご報告させていただきます。

介護保険料の減免のほうにつきましては、減免の対象を、全壊または大規模半壊及び半壊の住家といたしております。それと、減免割合につきましては、被災の程度と介護保険料の所得段階に応じて減免割合を定めました。

それでは、減免割合でございますが、保険料の所得段階につきましては、第1段階から第

9段階までございます。まず、第1段階から第5段階までの者につきまして、全壊の方は保険料の全額を免除、半壊及び大規模半壊につきましては2分の1。それと所得段階が第6段階、第7段階の者につきましては、全壊の方は保険料の2分の1、半壊、大規模半壊は保険料の4分の1。それと第8段階、第9段階の者につきましては、被災の程度、全壊の者につきましては保険料の4分の1、半壊、大規模半壊につきましては保険料の8分の1を減免するものでございます。

それと、続きまして、介護保険サービスの利用者自己負担額の減免についてでございます。

こちらにつきまして、対象者及び減免の期間でございますが、まず、対象者につきましては、現に居住する住宅が全壊または大規模半壊、半壊と判定された人を対象といたしてございます。

被災の程度による減免の割合、また期間でございますが、住宅の被害の程度が全壊の場合につきましては、利用者自己負担額の減免期間を6か月といたしております。3月11日から8月31日までの期間でございます。次に、半壊並びに大規模半壊の者につきましては、減免の期間を3か月といたしております。これは3月11日から5月31日までということにして、5月31日で半壊の方は減免期間が終了いたしてございます。

この減免の取り扱いにつきましては、対象者の方に認定書のほうを交付いたして、利用していただくようになってございます。

ちなみに、減免の対象者数でございますが、全壊の方で34人、半壊並びに大規模半壊の方で75人、合計109人が現在のところ対象者となっております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） それでは、所管事項の報告でございますが、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

林七巳委員。

○委員（林 七巳） 中央病院が新しい棟になりまして、何か変わったこととか、何か問題が起きなかったかどうか、ちょっとお聞きしたいんですが。

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） それでは、今のご質問に対してお答えいたします。

新棟ができた関係で何か問題が起きなかったかということでございますが、実際に新棟ができて、受診方法の変更ということを行っております。できるだけ機械化をするということが一つのコンセプトでありまして、再来受付機、それから自動精算機ということで導入

いたしまして、オープン当初はシステムが変更になったことで患者さん及び職員もふなれなことがございまして、多少混乱したということがございます。ただし、現状は、そこに朝6時半から職員を当てはめたり、夕方まで配置するというような形で、現在は非常になれてきているということがございます。

ただし、3か月投与というような形で長期間投与を受けている患者さんがおりますので、これは継続的に、その辺の患者サービスを向上させていながら、再来受付機、あるいは自動精算機のやり方を各患者さんにもご理解いただくというような形で進めていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（向後悦世） ほかにありませんか。

嶋田茂樹委員。

○委員（嶋田茂樹） それでは、せっかくの機会でございますので、中央病院のほうにちょっとお聞きしたいんですけども、3月の大震災で被災されました患者さんに対してどのような対応をしたのか。まずそれが1点。

それから、5月に新棟オープン後の患者数はどのような推移をしているのか。その2点をちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） 震災後の病院の受診状況、及び新棟オープン後の状況ということでございますので、一つ目の震災後の状況について、ちょっとお話しいたします。

震災後、6月まで、先ほどお話がありましたとおり、患者さんの申し出により、自己負担割合はゼロ割というような形で対応しています。その申し出のあった受診件数でございますが、申し上げますと、3月160件、4月が176件、5月が232件ということで、3か月間で568件ほどの患者さんの申し出がございました。

ただし、この中で市内国保の所有者と申しますか、市内国保を提示なさった方は234件ということで約4割。あとはほかの地区。例えば、茨城県ですとか原発が発生した福島の方から来ている方もいらっしゃいます。そういう形がありまして、実際の568件のうち、市内の国保の所有者の方は234件ということになります。

先ほどお話がありましたとおり、今月、7月からは保険の免除証明書が必要になるというような形で事務のほうも理解しております。

もう1点でございます。新棟オープン後の状況はどうかということでございます。

4月、5月と、患者数に関しましては、震災の影響と景気の後退もございまして、受診抑制が起きております。また、本館への引っ越し等により、昨年に比べますと、患者数は若干落ちていると。入院のほうは大きくは下回ってはいないんですけども、外来のほうは一時期、ちょっと下回っていたということがございますので、病院が一丸となって今後の収入確保と費用の抑制を図って、病院の安定的な経営をしていきたいというように考えております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 嶋田茂樹委員。

○委員（嶋田茂樹） そうしますと、5月の新棟オープン後、4月、5月におきましては、震災の影響が出て、多少、患者数が減っていると。しかし、それも景気の低迷とか、そういう面も影響してきているということで。それから、診療報酬の改正もございましたよね。そういうことも多少あるんでしょうかね。

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） 診療報酬に関しましては、2年に一度ということでございまして、今年は一切、点数の変更はございません。昨年の4月に診療報酬が改定になりまして、今年に関しましては、改正の裏の年と言われております。来年が改正になりますので、診療報酬の影響は全くないと思います。

（発言する人あり）

○病院事務次長（石鍋秀和） それは直接ないと思います。それと同時に、先ほどお話ししましたとおり、長期投与が認められたということがございまして、ドクターの方も、ちょっと遠方からいらっしゃる方に関しましては長期投与で、例えば90日間とか、そういう形の投与で患者さんの外来での混雑をできるだけ避けるというような趣旨もあると思いますので、診療報酬の改定によって大きく影響したということはないと私個人としては考えております。

以上です。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） 今、患者数の減少とありましたが、外来でしょう。どのくらい減ったんですか。

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） 数字でお話ししますと、4月が6万4,000人。

（発言する人あり）

○病院事務次長（石鍋秀和） すみません。ちょっとざっくりした形で申し訳ないです。

4月が6万4,000人から5万9,000人です。昨年比で92.6%。それから、5月、一般が5万9,700人から5万8,200人で、97.5%。約2・3%は減っていると。ただし、4月が大きいのは、やっぱり3月の影響、4月の影響というのがあって、5月ぐらいからちょっと復調傾向にあるので、後半にかけては患者数は戻るというように予想しています。ただし、病院としては、患者数が減ったということを受容し受けとめまして、病院長も全ドクター、あるいはスタッフにかけて、その辺の収入の確保と経費の抑制ということをうたっているというような状況です。

以上です。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） 了解しました。

実は、そういうのを前々から心配している人いたんですよ。だんだんお金が、景気が悪くて、お医者にかかれない人が増えてくる。そういう影響も徐々に中央病院に出ないかと心配している人、実際にいるんですよ。それで今、聞いてみました。

実際、人口だっただんどん減っていくし、あと25年したら、本会議でもいいましたが、旭市の人口も5万人台になっちゃうんですから。銚子市においては4万人台になっちゃうんですから。もう周りのパイが減っちゃうわけですから、今は患者が殺到して困るというが、そのうち、今度、患者が来なくなって困るなんてなったら大変ですから、よろしく願います。

それと、小さいことですが、実は日曜日のチラシに、中央病院のコンビニの従業員募集というチラシが入ったんですよ。これ見て、あれと思ったんですが、事務部長、どう見ます、このチラシ見て。

○委員長（向後悦世） 病院事務部長。

○病院事務部長（渡辺清一） 特にコンビニということは今考えておりません。

○委員長（向後悦世） 木内委員。

○委員（木内欽市） いやいや、チラシが入っているでしょうよ、日曜日に。中央病院。入ってない。入っているでしょう。私、持ってきてない。今、ちょっと車へ置いてきちゃったんですが、旭中央病院で、時間給750円。入っていますよ。

○委員長（向後悦世） 病院再整備室長。

○病院再整備室長（鍋木友孝） そのチラシのことは、ちょっと私も存じ上げていないんですけども、当院では、この後の利便施設ということで、1階にカフェを入れるということと、

12階に喫茶と売店を入れるということを計画しております。もしかしたら、その業者のほうから出たものかとは思いますが。

以上です。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） じゃ、ちょっと会議進めてもらっていいですか。私、ちょっと車行っ行ってきたいと思うんです。

○委員長（向後悦世） じゃ、10分間休憩いたします。11時10分まで休憩いたします。

休憩 午前 10時56分

再開 午前 11時10分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き所管事項の報告を行います。

引き続き、木内委員、質問をお願いします。

○委員（木内欽市） すみません、どうも。

読みますね。8月1日新規オープンにつき、オープニングスタッフ大募集。病院コンビニ売店販売スタッフ。こう書いてあるんですよ。勤務地が国保旭中央病院12階売店。ですから、そのお尋ねです。

○委員長（向後悦世） 病院再整備室長。

○病院再整備室長（鎗木友孝） お答えいたします。

こちらのほうは、この応募にも書いてあります、株式会社光洋という会社でありまして、こちらのほうの光洋という会社なんですけれども、おむつとか、そこら辺の販売から一部売店、その生産をずっとメインにしてきたところなんですけれども、今回、こういう売店業務にも入って、日用品を売ったりとか、それからコーヒーも売ったりとかということをしている会社であります。コンビニというふうに書いてありますけれども、いわゆるコンビニではない会社ですね。フランチャイズは扱っておりませんということでございます。

以上です。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） コンビニの会社じゃなくても、やることは最終的にはあれでしょう。だ

って、ここに病院コンビニ売店って書いてあるんだから、それで持ってきたんだから、パン売ったって、せんべい売ったって、何売ったっていいわけでしょう。そういう具合になるでしょう。ですから、別になっただっていいんですよ。そうやって変に言う必要ないんですよ。別に入ったって何したっていいんですよ。前にも質問しましたよ。この次、院外薬局の件も質問しますけれども、別になっただっていいんですよ。それを、入る予定がないとか。入っただっていいんですよ。そのスペースはもう既に配管してあるんだから、新棟を造るときにこういうスペースを造ってあったんでしょう。

○委員長（向後悦世） 病院再整備室長。

○病院再整備室長（鏑木友孝） こちらのほうなんですけれども、12階に92平米ということで当初から用意しておりました。やっぱり患者さんからのご要望も、カフェ……。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） 木内委員、ちゃんと挙手して、指名されてからお願いいたします。

○委員（木内欽市） 時間がないから。

だから、何言ってもいいんですけれども、最初から、質問したら、こういうスペース設けてありますよと、売店は造りますと、そのときに言ってくればいいだけの話なんです。これ見て初めてびっくり。ここにいる委員だって、みんな初めてですよ、これ。12階のそこにあるというのは。だから、そのときに説明してくればいいだけの話で、ただできますと。これだって、言わなきゃ誰も知らなかったでしょう。あら、行ったらできていたなど。それは便利になっていいでしょうけれども、やるんじゃないで、そういう説明をしてくださいということなんです。

私たちは、職員の皆さんを信頼しているから、いちいち細かいことを言わないんですよ。こういうことが続くようだと、やっぱり信頼関係が損なわれてくると思うんですよ。きょうは日下議員さんも傍聴に来ていますが、本会議でもいろいろ職員さんのこと言いますが、ふだんは職員を信頼しているから、いちいち聞かないんですよ、そんな細かいこと。ここには関係ないですが、例えば指名業者の入札の件だって、職員を信頼しているから、もういちいち聞かなかったんです、今まで。それでどうなのと言ったら、大丈夫。やったらこういうことになって、指名停止になったりしちゃうでしょう。それと同じようなことなんです。ですから、信頼関係を損なわないためにも、やることであれば、隠さないで、隠すというか、聞かれたら、別にコンビニではないけれども、売店だと。そういうの、何かおかしいと思いませんか。

○委員長（向後悦世） 病院事務部長。

○病院事務部長（渡辺清一） ちょっと補足させていただきます。

12階等、確かに展望ラウンジがありまして、あそこをもう少し有効利用できないのかと。職員からも喫茶みたいなスペースとして使えないかとかいう話もありまして、確かに一時期、売店のほうも、今入っている母子寡婦会のほうもコンビニ化をするという話が1回ありまして、コンビニの話については地元業者の取引を優先してほしいということで、コンビニのほうについては売店の今の形式でやるという形になったものですから、病院としては、コンビニを入れるということについては、あの時点で考えるということとはもうすっぱりやめたということで、あくまでもこの12階の活用、それから今回、1階もありますけれども、ちょっとした喫茶コーナー、利便的なものということで考えたということでございます。その中で、併設して、患者さんの入院の人なんかは、1階までおりてくるのもまた大変ですので、そういったもの、もしくは日用品的なものを若干コーナーとして設けるということですので、病院としては、コンビニ的なものを隠れてやるとか、そういったものではありませんので、ちょっとその辺は……。

今、もともとの予定していたのかというようなことで、予定していたというようなことの聞かれ方をするような答えになりましたけれども、そういう意味で1階なんかも急遽やったりして、配管等のスペースなんかはこれから業者負担でやるという形になりますので、そういった形でこそそそやっていたということではありませんので、その点だけご理解いただきたいと思います。

○委員長（向後悦世） 木内委員。

○委員（木内欽市） その説明では分かりました。でも、チラシをいきなり見たら……。じゃ、この業者に言いなさいよ、これ、委員に怒られたってよ。病院コンビニ売店と言うのはおかしくないでしょう。私の質問おかしいですか。おかしくないでしょう。このとおりに言っているんだから、病院コンビニ売店販売スタッフ、国保旭中央病院12階売店と書いてあるんだから、ああ、何だよ、コンビニができるとみんな思うでしょう。ですから聞いただけです。それで、もう少し親切なら、コンビニは来ませんけれども、売店は来ますって、そのぐらい言ってくださいよ。終わっちゃって、私は聞かれるわけですよ、どうなのと。コンビニが入るといいうわさがあるけれども。いや、私ちゃんと聞きましたよ。コンビニは入らないとはっきり言いましたよと私が答えたら、私のあれが立たないでしょうよ。そうすれば私も、コンビニは入らないけれども、売店は入ると言えるでしょうよ。

以上です。

それと同じに、ついでになります。調剤薬局はどうなんですか。

○委員長（向後悦世） 病院事務部長。

○病院事務部長（渡辺清一） 調剤薬局については、現時点では全く、今の段階ですぐ移すとかという考えはございません。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） 今の段階とか、一定の区切りがつけられた段階とか、訳の分からないような言葉が今増えちゃって困るんですが、今の段階ではないけれども、将来的にはあり得るんですか、じゃ。

○委員長（向後悦世） 病院事務部長。

○病院事務部長（渡辺清一） 院内薬局については、今まで、病院の経営の中で、患者さんにとっての負担が少ない、それから病院にとっても薬の中で若干利益が上がってきたところもあります。ですから、そういったことを考えながらですね。

今の段階ではと申し上げたのは、これから、消費税等の引き上げが今話題になっておりますけれども、消費税というのは、今、薬については病院が負担していると。ちょっとこういう変則的な状況がございまして、これがこのまま10%という形で引き上げられた場合には、病院の負担ということになると、病院としてはやりたくても負担に耐えかねる状況が出てくるだろうと。こういうことですので、そういった状況を見ながら、これから検討していかなければいけないと。当然、患者さんの利便とか、そういったものもありますけれども……。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） ですから、今みたいな答えが欲しかったんですよ。今はやるつもりないけれども、消費税がもう10%とかになった場合には考えなきゃいけないと。当然、そう答えるべきでしょうよ。私らがそうやって聞いたら、そうやって……。

あのね、皆さんみたいな答え方を私らが一般の有権者にしたら、一気に信用を失うんですよ、私らは。うそをついていると言われるんですよ。今現在考えてないとか、そういういいかげんなこと言ったら。今は考えてないけども、こうなったら将来は考えざるを得ないというのがあなた方プロでしょうよ。分かり切っていることなんだから。最初からそうやって言ってくればいいんですよ。別に院外薬局になろうと、私は頓着ないんですよ。ですから、そういう具合に答えたほうがいいと思いますよ、最初から。今現在では考えてないと。放射

能だって、今現在、危険な状態じゃないと。今現在、危険だったら大変でしょうよ。それと同じでしょう、言っていることが。そんな行政用語やって、その場しのぎの答弁は駄目ですよ。私は真剣に病院のこと考えているんですからね。ですから、こうやって討論するわけですよ。

言っちゃ悪いけれども、あなたは千葉へ帰っちゃうでしょう。千葉だかどこか帰るでしょう。終わったら帰るでしょう。職が終わったら。中央病院終わったら。私はずっとここにいますよ。私らも子どもも。生まれた人の7割は中央病院で生まれて、9割は中央病院で死んでいると出ましたけれども、生まれたときから死ぬまで、中央病院にお世話になっているんだ、私らは。親も世話になった、私も世話になった、子どもも世話になった、孫も世話になるわけなんですよ。ですから、中央病院のことはいろいろ質問します。毎回質問されて困ると言うかも知りませんが、そういう思いで質問するんですから、その場しのぎの答弁は以後しないでいただきたいという具合に思います。信頼関係薄れますので、よろしくをお願いします。

○委員長（向後悦世） 林七巳委員。

○委員（林 七巳） では、2点ほどお伺いします。

庶務課のほうに。今度造る飯岡中学校の土の高さですか、それを、今度は避難所にするというような最初からの計画ですので、最初、設計したときは、津波が来なかったときの設計でしょうから、その後、考え方の変わりがするのかわ、しないのかわ。すれば、どれぐらいのG Lの高さにするのかわ。

それからまた、今、ちょうど学校では修学旅行や遠足の時期で、八日市場に本社のある観光自動車会社が指名停止。その原因は、22年6月30日から22年7月12日に車検のない車で違反を13件繰り返したということが県のほうで出てますもので、今まで、小・中学校でこの会社をどのくらい使っているのかわ。何校、どこの学校が使っているのかわ。それとまた、子育てのほうのあれで、保育所関係がどのくらいあれしているのかわをお聞きいたします。

○委員長（向後悦世） 庶務課長。

○庶務課長（加瀬寿一） それでは、新しい飯岡中の関係です。

グラウンドレベルは、基本設計ではまだ確定しておりません。まだ、我々、測量に入る状態ではありませんので、これから実施設計を契約して仕事を進めていきます。その時点で測量が入りまして、グラウンドレベルはそれ以降に確定ということになるかと思えます。

それと、一般質問でも回答いたしましたが、あそこの標高が約9メートルございます。そ

れと、2階建てを建築しますと、屋上までの高さが、建物で見まして8メートル、屋上までの下からの高さ、標高を足していきますと、17メートルございますので、ある程度、危険な場所ということは考えておりません。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、ただいまの林委員さんのご質問の件でございますけれども、私のほうで大至急調査をさせていただきましたところ、昨年の段階で9校、回数でいきますと30回使っております。それから、本年度につきましては10校、26回。今後、あと4回ほど使う学校が3校ほどございます。今のところ、そういう情報でございます。

回数については以上です。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） 申し訳ございません。私のほうでこのバスのことについて、現在、調査まだできておりませんので、調査して、後日報告をさせていただきたいと思っております。

○委員長（向後悦世） 林七巳委員。

○委員（林 七巳） 車検もとらないバスで大事な子どもたちを。これは遊びじゃなく、たしか学習ですよ。学習をさせるということは、やはり嚴重なる調査を行って、業者は……。だって、食材だってそうでしょう。嚴重なる調査を行って、ここは安全だからとして給食に入れるわけですから、ぜひともその辺のところの注意を怠らないように今後お願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） ただいまの林委員さんのほうにはいろいろとありがとうございました。実は、今の情報につきましては、正直申しまして、私ども初めて聞いたという状況でございます。

現状でございますけれども、学校につきましては、各学校が独自にいろいろな観光業者、あるいは旅行業者といろいろと契約といたしますか、選定してやっているという状況でございます。まさかその業者が車検切れを使っていることは、本当にどこの学校も知らなかったという状況だと思います。私のほうも、教育委員会からこちらのほうがいいのか、悪いか、そういうことは一切言えませんので、ですから今後は、きょういただいた情報がありましたので、どういう形でそういう情報を得たらいいのかということは今後考えながら、またいろ

いろと最新情報がありましたらご指導いただきまして、すぐに学校のほうへ連絡をさせていただきまして、万が一、確かに事故があったときに、さまざまな補償の部分で非常に大変な事態が起こると思いますので、今後、そういう情報をどういうふうに入れたらいいのか、あるいは分かりましたらすぐ教えていただきまして、学校現場のほうへ流したいと思いますので、どうぞ今後ともご指導のほうよろしく申し上げます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 林七巳委員。

○委員（林 七巳） 6月14日から160日の営業停止処分食っているわけですよ。だから、これからやる学校は営業停止処分の車を使うという形になりますので、早急にその対策を考えていただきたい。一番困るのは子どもたちですから。子どもたちに迷惑のかからない、負担のかからないような対策をとっていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） すみません、しつこいようで、もう1点同じことです。

この病院コンビニ売店、売店でも何でもいいですが、これは応募というより、募集したんでしょう。どのような募集をかけて、何社応募があつて、あと地代とか幾らぐらいか、お願いします。

○委員長（向後悦世） 病院再整備室長。

○病院再整備室長（鍋木友孝） こちらのほうですけれども、今年の3月以降に、院内の利便業者選定委員会によりまして、その中でプロポーザルで行ったものです。全部で5社参りました。ということで、その資格的なものとしましては、500床以上の病院とか公共施設で入っている業者ということで応募したものでございます。

家賃につきましてですけれども、こちらのほうは、その売り上げの2.5%ということになります。

以上です。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） ちなみに、その応募者で旭市内の業者さんはあったんですか。

○委員長（向後悦世） 病院再整備室長。

○病院再整備室長（鍋木友孝） 市内での応募はございませんでした。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） というよりね、こういうのは、市内の人、知らなかったんじゃないですかね。私らも知らないくらいなんだから。病院に出したいという人は、募集の書き方によってはあったと思うんですよ。病院専門云々といったって、病院でおむつ売ったり何か売ったりですから、市内の業者さんでも十分これはできたと思えば、そういったような募集はやったんですか。

○委員長（向後悦世） 病院再整備室長。

○病院再整備室長（鎬木友孝） こちらのほうですけれども、応募のところで、喫茶と、それから売店業務ということを抱き合わせで行っておりますので、実際、そういうことからいくと、両方かなえている業者さんというのは市内にはないのかなというふうに感じております。以上です。

○委員長（向後悦世） 木内欽市委員。

○委員（木内欽市） 要するに、私らは職員の皆さんに全幅の信頼置いているから、病院のことは全部病院に任せるよというようなあれをとっているんですから、いちいち議員に、これはどうだこうだというのを聞かれることのないように。信頼関係あれば、こんなこと聞きませんよ。病院が全部やってくれていると思っていけば。ですから、じゃ入札どうしたのかという問題にだんだんなってきちゃうんですよ、こういうことが。小さなことが。ですから、聞かれたことは、聞かれたことだけじゃなくて、さっきも言うように、こういう場合もありますよ。消費税が上がった場合には調剤薬局も考えますって、当然だと思いますよ。そこまで言うのが答弁だと思いますよ。型どおりの質問じゃないんですから、後で腹立つような答弁はしないでください。

終わります。

○委員長（向後悦世） 庶務課長。

○庶務課長（加瀬寿一） すみません、1点、報告漏れました。

第一中学校屋内運動場工事、6月に終わりました、すべて6月中に検査も済みました。竣工式を7月19日火曜日、10時30分から行います。委員の皆さん、ぜひご臨席賜りたくお願いいたします。

以上でございます。

すみません、ありがとうございます。

○委員長（向後悦世） 特にならぬようでございますので、所管事項の報告を終わります。

請願の審査

○委員長（向後悦世） 次に、請願の審査を行います。

教育委員会以外は退席してください。

しばらく休憩いたします。そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前11時31分

再開 午前11時34分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

去る6月27日の本会議におきまして、本委員会に付託されました請願は、請願第1号、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択を求める請願、請願第2号、「国における平成24（2012）年度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願の2件であります。

初めに、請願第1号について審査に入ります。

紹介議員であります日下昭治議員より説明をお願いいたします。

○紹介議員（日下昭治） 議案審査に引き続きまして、よろしく願いいたします。

昨年も紹介議員をさせていただき、上程、採択、そして意見書を提出いただきましてありがとうございました。本年もどうぞよろしく願いしたいと思います。

請願第1号、請願第2号とも、旭市合併以来、あるいはそれ以前から、今回同様、各議会へ上程され、審議されてきました。請願の趣旨については、前年度の請願と大幅には変わっていないかと思えます。請願者、請願団体になりますが、子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体千葉県連絡会です。連絡会には、多くの団体、協議会、教員組合等の参加もされているようです。会長は小比類巻勲様です。

なお、詳細につきましては、学校教育課長より補足して説明していただければと思います。

請願第1号、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択を求める請願について説明をさせていただきます。

義務教育の根幹である機会均等、水準確保などを支えるためには、教育は人なりと言われ

るように、教職員の確保と適正配置のために、国が財源を安定的に確保するためのものが義務教育費国庫負担制度であります。小泉内閣の三位一体改革で2006年度より、それまでの国負担2分の1から3分の1に縮減され、残り3分の2は地方財源ということで今日に至っています。

その制度も恒久的なものではなく、一昨年の行政刷新会議の事業仕分けでは、義務教育費は全額国庫負担すべきではないかという意見も出されているとのこと。また、一括交付金への移行も検討されたこともあるようですが、地方の自由裁量拡大に寄与しない義務的な負担金、補助金等は一括交付金の対象外とする閣議決定をされていますが、現行制度でも35人学級など、定員規模を縮小する措置は都道府県費、自治体裁量権で行われていますが、義務教育費国庫負担制度が廃止された場合は、義務教育の水準格差、あるいは国民に等しく義務教育を保障するという観点からは大きくずれが生じることが危惧されますし、厳しい地方財政をさらに圧迫することが懸念されます。

以上のような点、また請願の趣旨をご理解いただき、採択の上、政府関係機関に意見書を上げていただけるようお願いし、説明に代えさせていただきます。

○委員長（向後悦世） 日下昭治議員の説明は終わりました。

続いて、学校教育課より参考意見がありましたらお願いいたします。

学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、請願第1号、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択を求める請願について、ご説明を申し上げます。

ただいま、日下議員さんから提案理由をしていただきましたように、最初に、こちらのほうの請願でございますけれども、今、話がありましたように、千葉県市町村教育委員会連絡協議会、千葉県都市教育長協議会、それからあと千葉県PTA連絡協議会。なお、PTA連絡協議会につきましては、会長様は現在、旭市から県の会長が出ております。それからあと、千葉県の小学校長会、千葉県中学校長会、千葉県高等学校長会、ほか、千葉県の教育界を代表する22の団体で作る子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体千葉県連絡会の会長名で採択を求められた請願でございます。この会長の小比類巻様でございますけれども、現在、浦安市の教育委員長をやっております、千葉県市町村教育委員会連絡協議会の会長も今務めていただいております。

今、お話がありましたように、義務教育費国庫負担制度というものでございますけれども、さまざまなこれまでの改革の中でどんどん縮減されてきたという現状がございますけれども、

今のところ、何とか堅持はされております。その負担の割合ですけれども、今、日下議員さんから話ありましたように、もともとは2分の1が国から負担がりましたが、今は3分の1ということで、国の負担が3分の1になっております。縮減されてしまいました。国庫負担の割合がこのように恒久的な措置ではなくて、制度そのものが結局廃止されるという可能性も依然として残っているという現状でございます。

学校のほうでございますけれども、学校は、ご承知のように、子どもたちの学ぶ場として、さまざまなことを学ぶ場として、あるいは自己実現を図る場として、教諭、これはもちろん管理職を含む教員でございますけれども、あるいは養護教諭、事務職員、栄養職員等がみんなで力を合わせて児童・生徒の指導と支援に当たっております。確かに、直接指導に当たる部分は教諭の部分でございますけれども、学校全体としては、養護教諭、あるいは事務職員、こういった方々も非常に大きな力を発揮していただいているという現状でございます。

そんな中で、特に基幹職員と言われております事務職員、栄養職員の国庫負担外しというものが数年前から、どうだろうかということで、そういう話も出ております。そうなりますと、例えば、栄養・事務職員が今現状では各学校に配置されているんですけれども、こういった方々について、いわゆる国庫負担がなくなると、全校配置が非常に難しいという部分も出てくるかと思えます。こういった教職員の安定した確保で子どもたちへのきめ細かな指導も可能になると考えております。

いわゆる義務教育は、公平性といいますか、あるいは全国の教育水準を維持する、あるいは機会の均等という部分で、この制度が非常に大きな根幹になっているというふうに考えております。ぜひ、これまでいろいろと採択をしていただいておりますけれども、お願いをしたいなと思えます。

なお、去年は、県下42の市町村でこの請願が採択されております。

以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

それでは、審査をお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようでございますので、続いて、請願第2号について、紹介議員であります日下昭治議員より説明をお願いいたします。

○紹介議員（日下昭治） 請願第2号、「国における平成24（2012）年度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願について説明をさせていただきます。

義務教育は、憲法の要請に基づき、子どもたち一人ひとりが国民として必要な基礎的資質を培うものです。教育の水準や機会均等を確保することが国家の基盤になると考えます。本市においては、学校整備事業、旭市学校いきいきプラン事業の施行など、教育環境、教育活動に多大なる支援をされていますので、子どもたちは、充実された環境整備により個性を伸ばし、可能性をさらに広める機会となると確信をしております。

しかしながら、社会変化とともに、子どもたちを取り巻く環境も変化して、いろいろな問題も山積しています。子どもたちの健全育成、豊かな教育を実現するためには、教育環境整備は一層進めていく必要があると考えます。

そこで、以下7項目を中心に、働きかけをお願いいたします。

1点目、子どもたちにきめ細かな指導をするための公立義務教育諸学校における教職員の定数改善計画を早期に策定すること。

2点目、少人数学級を実現するための義務教育諸学校における学級編制基準を改善すること。

3点目、保護者の教育費負担を軽減するために義務教育教科書無償制度を堅持すること。

4点目、現在の経済状況を鑑み、就学援助にかかわる予算を拡充すること。

5点目、子どもたちが地域で活動できる総合型地域クラブの育成等、環境・条件を整備すること。

6点目、危険校舎、老朽校舎の改築やエアコン、洋式トイレ設置等の公立学校施設整備費を充実すること。

7点目、子どもの安全と充実した学習環境を保障するために、基準財政需要額を改善し、地方交付税交付金を増額すること。

以上、請願第1号同様、よろしく願いしまして、説明に代えさせていただきます。

○委員長（向後悦世） 日下昭治議員の説明は終わりました。

続いて、学校教育課より参考意見がありましたらお願いいたします。

学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、平成24年度の教育予算拡充に関する意見書の採択のほうでございますけれども、こちらのほうも同様に、同じ団体、そして責任者は小比類巻様、浦安市教育委員会委員長様から出ております。この意見書採択を求める請願でございますけれども、今申し上げましたように、先ほどと同じ団体から出たものでございます。

少人数できめ細かな指導の確立に向けた教職員の定数を改善することなどは、子どもたち

の学力向上に直結することをございます。また、現在の経済状況等を考えますと、保護者の教育費の負担の軽減に向けての取り組みや、就学援助予算の拡充を求めることはとても大切なことだと考えております。

特に、教科書の無償制度につきましては、経済状況からだけでなく、教育を受ける権利が等しく保障されていることから、ぜひ維持していかなければならない制度と、このように考えております。子どもたちが学ぶ学校施設についても、さらに整備しまして、安全で安心な学習環境のもとで学ぶことができるよう、教育予算の増額を図るべく、本請願の採択をお願いしたいと存じます。

なお、ただいま申し上げましたように、この請願につきましても、昨年と同じように、42の市町村で採択されております。

ちなみに、市のほうでは、非常にいろいろな部分で教育予算のほうを拡充していただきまして、どうもありがとうございます。例えば、洋式トイレというのもございますけれども、新しい校舎を見ますと、結構、洋式トイレが入っております、私が前いた学校でも洋式トイレが入っております、実は今、前学校の古城小学校に左半身不随のお子さんがありまして、その子が事前に来たときに、洋式トイレが各階にあるということで母親も非常に安心をしておりました。今、学校訪問しておりますと、比較的新しい学校は必ず1か所ぐらい洋式トイレが入っているということで、こういった部分で市のほうでは非常に学校施設のほうでお力添えをいただいている、非常に感謝しております。

また、これも市のほうでやっただけでございまして、いわゆる教諭補助員という形で、本年度17名ほどつけていただいております。そのうち3名につきましては、外国語の指導の補助ということで入っていただいておりますし、あと残りの方々については、特に大きな仕事をしていただいているのが、今申し上げましたような特別支援教育ということで、さまざまな支援を要するお子さんたちについて、非常にいろいろと力を尽くしていただいております。

このように、市のほうでは非常にやっただけでございまして、国のレベルでいいますと、まだまだ、予算がなかなか市と同じように出していただけないという現状がございまして、

ちなみに、私のほうで調べましたところ、各世界の中では、非常に国策として学力向上を目指して、教育水準の確保のために国家が教育投資を拡充するという方向で進んでいるようございまして、数値を見ましたところ、例えば、国内総生産、GDPに占める割合の部分でございまして、日本は2.7%、それに対しましてドイツは3%、イギリス3.7%、アメ

リカ3.8%、フランスが4%というような形で、かなりの教育予算を割いていただいているということでございます。いろいろと厳しい中でございますけれども、旭市と同様に、国のほうでも教育予算を拡充していただけるように、採択のほうをお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

それでは、審査をお願いします。

景山岩三郎委員。

○委員（景山岩三郎） この前もたしか、6番目のエアコンというのを扇風機でどうでしょうかと言いました。ちょうど今、原発、いろいろありますので、その点ひとつお願いしたいなと思う。当市においても、課長さん、扇風機くらいは学校のほうに必要だと私は思います。お願いいたします。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） では、いいですか。

特にないようですので、ここで執行部は退席してください。ご苦労さまでございました。しばらく休憩いたします。

休憩 午前11時50分

再開 午前11時56分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き請願の審査を行います。

初めに、請願第1号について、ご意見がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、請願第1号の審査を終わります。

続いて、請願第2号について、ご意見がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、請願第2号の審査を終わります。

請願の採決

○委員長（向後悦世） 次に、討論を省略して採決いたします。

請願第1号、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択を求める請願について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、請願第1号は採択と決しました。

請願第2号、「国における平成24（2012）年度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、請願第2号は採択と決しました。

以上で本委員会に付託されました請願の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これに異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

意見書案の説明

○委員長（向後悦世） 続きまして、ただいま採択と決しました請願が本会議で採択された場合、意見書提出に伴う発議案を提案することになりますので、事前に準備をしたいと思います。

事務局、意見書案を配布してください。

（意見書案配布）

○委員長（向後悦世） 初めに、請願第1号の意見書案について、ご協議をお願いしたいと思います。

います。

事務局より説明をお願いいたします。

事務局長。

○事務局長（堀江通洋） それでは、請願第1号の意見書案についてご説明いたします。

座ったままで説明させていただきます。

お手元に配布してございます義務教育費国庫負担制度堅持に関する意見書案をご覧くださいと思います。

意見書案を朗読して説明に代えさせていただきます。

義務教育費国庫負担制度堅持に関する意見書（案）

義務教育費国庫負担制度は、憲法上の要請として、教育の機会均等とその水準の維持向上をめざして、子どもたちの経済的、地理的な条件や居住地のいかんにかかわらず無償で義務教育を受ける機会を保障し、かつ、一定水準の教育を確保するという国の責務を果たすものである。

政府は、平成21年11月に、行政刷新会議において、義務教育費国庫負担制度を事業仕分けの対象として論議した。また、「地方主権」を確立するため、今夏にも「地域主権戦略大綱（仮称）」を策定するとしている。その中で、国から地方への補助金を廃止し、地方が自由に使える「一括交付金」の検討を開始している。義務教育と社会保障の必要額は確保しているが、義務教育費国庫負担制度についても論議される可能性がある。

義務教育における国と地方の役割等について十分議論がされないまま、地方分権推進の名のもとに、このような検討が現実のものとなると、義務教育の円滑な推進に大きな影響を及ぼすことが憂慮される。また、義務教育費国庫負担制度が廃止された場合、義務教育の水準に格差が生まれることは必至である。

よって、国においては、21世紀の子どもたちの教育に責任を持つとともに、教育水準の維持向上と地方財政の安定を図るため、義務教育費国庫負担制度を堅持するよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

意見書の提出先でございますが、内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、総務大臣あてでございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 事務局の説明は終わりました。

それでは、ご協議をお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 特にないようでございますので、請願第1号の義務教育費国庫負担制度堅持に関する意見書は、原案のとおりとすることでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 異議ないようでございますので、本意見書は原案のとおり準備を進めたいと思います。

続いて、請願第2号の意見書案について、ご協議をお願いしたいと思います。

事務局より説明をお願いいたします。

事務局長。

○事務局長(堀江通洋) それでは、請願第2号の意見書案についてご説明いたします。

また座ったまま説明させていただきます。

国における平成24年度教育予算拡充に関する意見書(案)

教育は、憲法・子どもの権利条約の精神に則り、日本の未来を担う子どもたちを心豊かに教え、育てるという重要な使命を負っている。しかし現在、日本の教育は「いじめ」「不登校」をはじめ、「学級崩壊」、少年による凶悪犯罪、さらには経済不況の中、失業者の増加による授業料の滞納等、様々な深刻な問題を抱えている。

一方、国際化・高度情報化などの社会変化に対応した学校教育の推進や教育環境の整備促進、新学習指導要領への移行による授業時数の増加や小学校における外国語活動の必修等に伴う経費の確保も急務である。

千葉県及び県内各市町村においても、一人ひとりの個性を尊重しながら、生きる力と豊かな人間性の育成をめざしていく必要がある。そのためのさまざまな教育施策の展開には、財政状況の厳しい現状をみれば、国からの財政的な支援等の協力が不可欠である。充実した教育を実現させるためには、子どもたちの教育環境の整備を一層進める必要がある。

そこで、以下の項目を中心に、来年度に向けての予算の充実をしていただきたい。

- ・子どもたちに、きめ細かな指導をするための公立義務教育諸学校における教職員の定数改善計画を早期に策定すること
- ・少人数学級を実現するための義務教育諸学校における学級編制基準を改善すること
- ・保護者の教育費負担を軽減するために義務教育教科書無償制度を堅持すること
- ・現在の経済状況を鑑み、就学援助に関わる予算を拡充すること
- ・子どもたちが地域で活動できる総合型地域クラブの育成等、環境・条件を整備すること

- ・危険校舎、老朽校舎の改築やエアコン、洋式トイレ設置等の公立学校施設整備費を充実すること
- ・子どもの安全と充実した学習環境を保障するために、基準財政需要額を改善し、地方交付税交付金を増額することなど

国においては、教育が未来への先行投資であり、日本の未来を担う子どもたちに十分な教育を保障することが、国民の共通した使命であることを再認識され、国財政が非常に厳しい状況の中ではあるが、必要な教育予算を確保することを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

意見書の提出先でございますが、内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、総務大臣あてでございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 事務局の説明は終わりました。

それでは、ご協議をお願いいたします。

意見がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようでございますので、請願第2号の国における平成24年度教育予算拡充に関する意見書は、原案のとおりとすることよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） ご異議ないようでございますので、本意見書は原案のとおり準備を進めたいと思います。

なお、意見書の提出に伴う発議案の提出者につきましては、委員長名で議長に提出したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

陳情の審査

○委員長（向後悦世） 次に、陳情の審査を行います。

病院の入室を求めます。

しばらく休憩いたします。そのまま自席でお待ちください。

休憩 午後 零時 9分

再開 午後 零時 9分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

去る6月27日の本会議におきまして、本委員会に付託されました陳情は、陳情第1号、大幅増員と夜勤改善で安全、安心の医療・介護を求める陳情の1件であります。

それでは、陳情第1号の審査に入ります。

初めに、病院より参考意見がありましたらお願いいたします。

病院事務部長。

○病院事務部長（渡辺清一） 本陳情の中身でございますけれども、看護師等の大幅増員と勤務条件の改善を求めるものというふうになっておりますが、病院の状況を申し上げます。

看護師等におきましては、全国的に不足している状況でございます。当院におきましては、附属看護学校での定員増を含めました要請、積極的な採用活動の促進、それから奨学金制度の充実、こうしたことによりまして看護師確保に努めておりまして、必要な数は何とか確保している状況でございます。

当院に限らず、看護師等の勤務を取り巻く環境については、厳しいことはまた十分に承知をしているところでございます。しかしながら、今回の陳情全体の趣旨ですけれども、全体の趣旨としては分からないわけではないんですけれども、具体的な項目といたしまして見ますと、例えば週32時間の勤務ということになりますと、現状ではとても、守ることは、この病院に限らず、不可能かというふうに考えております。人数の確保もなかなか難しい状況の中では、この内容については現実的なものとは言えない状況かと思えます。

以上です。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

それでは、審査をお願いいたします。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 教えていただきたいんですけれども、千葉県医療労働組合連合会というところに中央病院との関係は何かあるんですかね。

それともう1点。週32時間というところを外せば、この陳情は……。例えばどのくらいにすれば、この陳情文は。まあ全体にはいいだろうというお話でしたけれども、この32時間を

どのぐらいにすればじゃいいのかという点で話を聞かせていただければ。

○委員長（向後悦世） 病院事務部長。

○病院事務部長（渡辺清一） まず、この千葉県医療労働組合連合会でございますが、病院とのかかわりということに関しまして言えば、病院の中では、特に組合等の組織はございませんので、組織的なつながり等は特別ないところでございます。この組合に加入している個人加入的な職員もいるというふうには承知しておりません。

それから、この内容の中で、例えばどういうものだったらというお話ですけれども、交代制勤務労働の1日8時間を厳密に守るということもなかなか、通常の看護師におきましても時間外等も発生しますし、それは難しいと。それから、現在は週40時間。38時間何分でございますけれども、基本的には40時間近い勤務を行っておりますので、これが32時間になれば、当然、その分の人員の手当が必要になります。

それから、勤務間隔等の12時間以上。これも現在、病院の中で2交代勤務。例えば3交代ですと、夜勤等で夜に帰らなければいけないと。この中身によっては、若い看護師等については、すっきり勤務して、間をあいて、休みを多くとったほうがいい、そういう声もありません。一部では2交代等もとっておりますので、こういった勤務もなかなかしにくいのかなということもございます。

ちょっと細かいところまで申し上げられませんが、そういう状況でございます。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 今の件なんですけれども、ILO看護職員条約というのはこういうふうになっているんですね。ただ、雰囲気として……。今の点をちょっともう1回教えてもらいたいと思うんですけれども。先にお願ひできますか。

○委員長（向後悦世） 病院事務部長。

○病院事務部長（渡辺清一） こちらのほうもちょっとにかわ勉強で申し訳ないんですけれども、ILOの看護職員条約の勧告の中では、労働時間1日8時間を超えるべきではないとか、12時間継続する休息時間を与えるとか、そういったことは定められているようでございます。

ちょっと32時間のところについては、この根拠のところ、申し訳ありません、きちんと確認できておりません。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） すみません、私も分からないもので。また後で、分かったら教えていただきたいと思ひます。

ただ、雰囲気的に、今の事務部長のお話で、旭中央病院としては、この陳情文はどうもしてほしくないというような雰囲気を感じるんですけれども、素直に言ってもらっちゃって結構だと思うんですよ。私どもは病院の意向に沿ってしたいと思いますので。私はね、私どもじゃない。ごめんなさい、私は。

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） 今の佐久間委員のお答えになるか、ちょっと分からないんですけども、今回、32時間ということになりますと、簡単にいえば、40時間勤務が普通ですから、2割人を増やさなきゃいけないということになります。そうしますと、今の7対1看護はすべてなくなります。というのは、40時間勤務することを前提に7対1看護というのが組まれておりますので、それが32時間になりますと、ちょっと計算上、7対1から10対1とか13対1とか、下の基準看護になりまして、現実的には大幅な収入減につながってしまう。医療機関として。仮に、32時間勤務のために2割増員をしますと、500万円計算でも約10億円、人件費だけが増加します。そうしますと、やはりこれも病院の経営上は安定経営はできない。今の労働基準法が40時間という定めを設けている関係がありますので、看護師だけを32時間ということにはちょっといかないのではないかと。看護師が32時間になりますと、ほかの職種、医者をはじめ、コ・メディカルもすべてそういう形で勤務せざるを得ないという形になりますので、現実的には、看護要員だから、介護要員だからといって32時間勤務というのはちょっと認められないというのが私の意見でございます。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

特にないようでございますので、ここでしばらく休憩いたします。

執行部は退室してください。ご苦労さまでした。

休憩 午後 零時 19分

再開 午後 零時 19分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、陳情第1号について審査を行います。

ご意見がありましたらお願いいたします。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 先ほど、病院事務部長のほうから説明をいただきまして、当面の間、中央病院が非常に困りそうだということでございますので、全体的にはいいというお話ですけども、今回は見送らせていただきたいと。私はそう思います。

○委員長（向後悦世） ほかにありますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、陳情の審査を終わります。

陳情の採決

○委員長（向後悦世） 次に、討論を省略して採決いたします。

陳情第1号、大幅増員と夜勤改善で安全、安心の医療・介護を求める陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 賛成少数。

改めて採決いたします。

不採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 賛成多数。

よって、陳情第1号は不採択と決しました。

以上で本委員会に付託されました陳情の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長（向後悦世） 以上で審査は全部終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。
大変ご苦労さまでした。

閉会 午後 零時 23分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会文教福祉常任委員会委員長 向 後 悦 世